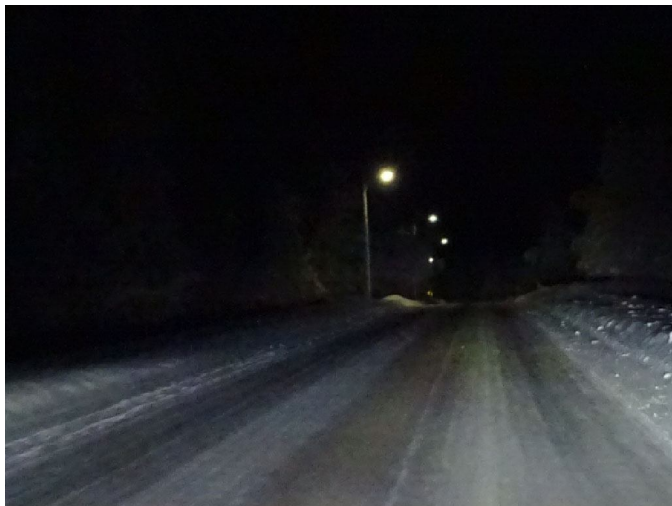


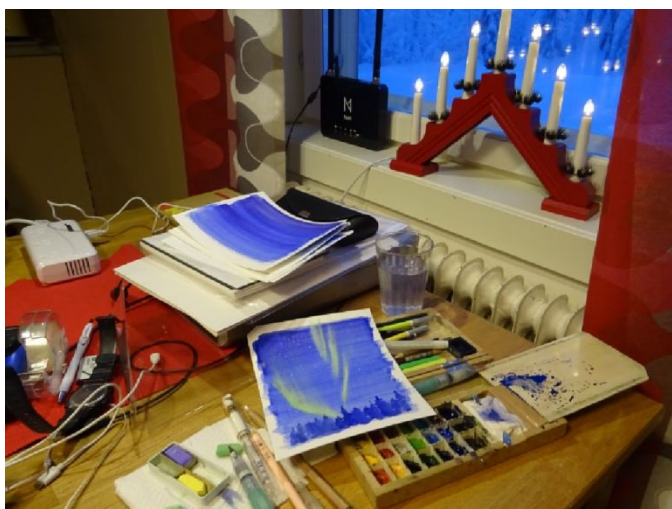
北極圏旅行記 2017-2018 冬 (20)

～12/31 静かな大晦日～

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋



一人きりのオーロラ観望を終えて、キャビンのあるマスグンス村に戻る。わずか10分の夜道だが、村の入口にある街灯が見えると、心底ほっとする。2番目の街灯の左側に、宿泊先のキャビンがあるのだ。



この日は大晦日。キャビンに戻った時刻は22時。日本とは8時間の時差があるので、東京はすでに2018年になっている。紅白も終わっている。終わってなくてもスウェーデンでは紅白は見られない。静かな大晦日だ。私はダイニングテーブルの窓辺に仕事場を作って、絵を描いたり、携帯用プリンターでオーロラの写真を印刷したりしながら過ごすことにした。

このキャビンには、宿泊者が自由に書ける「ゲスト・ブック」がある。夏に来た時にも書いたが、今回は写真や絵を貼ることにした。



ゲストブックには、スウェーデン語、英語、フィンランド語、それに日本語が混在している。皆、居心地の良さを述べ、また来たいと書いてある。



スウェーデンでは、年越しのイベントとして、花火を盛大にあげる習慣がある。23:30ごろから、町のあちこちで個人でも花火をあげる。大きな町では、中心部で年越しの瞬間に花火大会があって、ワインを飲みながら大騒ぎをする。(2004年冬・Porjusで撮影)



ここでも期待していたのだが、マスグンスは小さな村。何発か小さな花火があがっただけだった。